



山本敬介議員

外国人への窓口対応は

1 トマム地区の定住対策

問 トマムリゾートの集客は好調ですが、同時にアルバイトの寮確保のため、社員が寮の退去を求められています。現状の認識を伺います。

中村村長 5月26日の定期協議でも、従業員への定住対策について意見交換をし、職員の定住を要請しています。トマム地区の住宅問題は大きな課題と考えています。

問 現代日本におけるコンビニエンスストアは、社会における「インフラ」となりつつあります。公共料金の収受、各種支払、住民票発行、防災時の協定など公共性が非常に強くなっていますが、村長の認識を伺います。

中村村長 コンビニは社会における大きな「インフラ」の一つという認識を持っています。

問 トマム住民による地域カフェは重要ですが、町内会がこの「インフラ」を担うのは難しいと思います。リゾートや高速インターの利用客も含め、コンビニ導入の調査、コンサルティングをすべきではないでしょうか。



か。

中村村長 村もトマム地区にコンビニは必要だという認識は同じです。今後はリゾートの力も借りながら出店要請を進めて行く考えですので、調査事業を行う考えはありません。

問 新しい住民にトマムに定住していただくには「インフラ」としてのコンビニがないと難しい。これは政治判断として村長

外国人対応が求められる窓口業務

や議会でも考えていくべき事項ではないでしょうか。伺います。

中村村長 北海道で3本の指に入るリゾート地に店や、石油スタンドがないのは異常な状態と思っており、解消して行かなければならないと考えています。

2 「くるくるショップ」

導入は

問 一般廃棄物埋立場は平成34

年にはいっぱいになるという状態です。廃棄物の量を減らすためにも、まだ使える不要品をリユースする「くるくるショップ」を導入できないでしょうか。

中村村長 年一回、ボランティアを募ってまだ使える不要品を集めて村民の方にリサイクルするといった検討は必要だと考えています。

3 外国人住民への対応は

問 リゾート勤務の外国人も年々増加傾向にあり、外国人住民対応窓口の必要性が高まっていると感じていますが、現状と、村のイングリッシュスピーカーに対する研修制度などがあるのか伺います。

中村村長 現在役場窓口には英語のできる職員を配置しておりますが特別な訓練はしていません。例えば行政の届出様式は全て日本語ですが、翻訳アプリなどを利用しながら外国人登録者には対応していきたいと考えています。